



「病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業」 実施報告書 2016

病気で入院・療養が長期間になると勉強や遊びなど、さまざまなことが制限されます。そのような状況下の子どもたちには、情緒的ウェルビーイング（安心感・満足感・幸福感）を保障していくことが特に重要です。プロのパフォーマーと出の会やあそびのワークショップで子どもたちの心からの笑顔と感動、喜びの声が聞こえる温かく楽しいコミュニケーションの場をプレゼントしました。付き添う保護者もほっとできる機会となりました。

実施病院：国立国際医療研究センター国府台病院

公演プログラム名：「チカパンのパントマイム！」

日時：2016年11月22日（火）15：00～16：00
場所：第3病棟ホール
参加者人 40人
子ども34人（小学生8人 中学生以上26人）
病院関係者6人（看護師4人 学校関係者2人）
出演者：チカパン

公演内容

パントマイムで自己紹介、壁、見えない風船、すがすがしい朝・バッドモーニング、誕生日のプレゼント、ぼうし屋さんの帽子、手品やパントに挑戦、月夜のパント、他、



チカパンの自己紹介パントマイムに、「わかったー」手を挙げる子ども達。「かべどん」のパントに、興味津々の表情で引き込まれていった。チカパンからの見えない風船をちゃんと受け止め「あざーす。」と挨拶。廊下から自分スタイルで覗いている子も。



帽子やさんの体操帽をかぶると「おー、走ってる」「ひとりつなひきだ」。黄色い帽子は何に見える？「くさったオレンジ」「月」「お日様、まぶしい」と想像し、手を挙げて次々と答えた。その後、子どもたちは自然にチカパンのパントを一緒にやり始め、チカパンとのやり取りに笑顔がいっぱい。

子どもの声

- ・まどがあかなかつたりするところがおもしろかった
- ・「月夜」のパントマイムがキレイだった。
- ・声を出していないのに何をつたえようとしているのか、よく分かった。
- ・ないものがそこにあるように見えてすごかった。
- ・なぞめいたところがおもしろかった。
- ・パントマイムで、前に出て、むずかしかったけど楽しかった。
- ・ぼうし屋がおもしろかった

病院関係者からの声

- ・興味をもち楽しそうに見ていた。「パントマイムってこうやるんだ」という感じで、体が動いていたのが印象的。
- ・入院している間は、家族と一緒に何かを見に行くという行動はとれない。そのなかで、めったに見ることができないパントマイムのショーをみたこと、感じたことは心に残ると思われる。一つの成功体験につながると思われる。

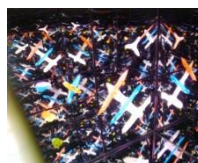
実施病院：国立国際医療研究センター国府台病院

ワークショップ名：「手作り工房～キラキラ・ワクワク・クリスマス～」

日時：2016年12月13日（火）14：00～15：30
場所：院内学級小学校教室
参加者人 12人
子ども8人（小学生8人）
病院関係者4人（看護師1 教師3）
指導者：（特）市川子ども文化ステーション

ワークショップの内容

六面体万華鏡
クリスマスカード
スポンジケーキ作り



スポンジケーキ作りは、じっくりと作り込む子や、自分のアイデアを試すようにたくさん作る子もいた。ボンドを生クリームに見立てたり、ビーズを果物に見立てて飾ったりして美味しそうなケーキを作っている子もいた。



六面体万華鏡づくりで、綿棒を使ってごしごしと削る作業は根気よく続けて、自分がイメージしたように仕上げていた。自分の名前を漢字で削るなど、子どもの発想の豊かさを感じた。出来上がった万華鏡を覗き込み歓声を上げ、友達どうして見せ合い「わー、すげー」と互い褒め合ったり、先生や指導者に見せて「きれいだね!」「すごいね!!」の感想に嬉しそうだった。

子どもの声

- ・楽しかった。はこの色ぬりがたのしかった。
- ・ケーキを作るのがたのしかった。ボンドをいっぱいぬって、つぶつぶを乗せたのが楽しかった。
- ・ケーキのかざりつけがたのしかった。
- ・万華鏡をつくるのが楽しかった。あんなふうになるとは思わなかった。
- ・どっちも楽しかった。万華鏡のをぞくとすごかった。
- ・ケーキを作るのが楽しかった。お母さんとぼくの分。
- ・万華鏡でこするのたいへんだった。のぞいたら異次元を感じた。
- ・万華鏡、真の字がきれいだった。めちゃくちゃ宇宙・異次元を感じた。

病院関係者からの声

- ・不安や見通しの持てない未知なるものへの恐れがあったりするが、そっと見守りながら手を貸してくださり、一人一人の子どもが自分の作品作りに集中して取組み、友だちと関わりながら和やかに活動できた。
- ・とても分かりやすい内容で、作品の完成度が高く、達成感があったと思った。
- ・他の子の作品をみて、よさを認めている様子が人間関係作りに大切だと感じた。

実施病院名：千葉県千葉リハビリテーションセンター

ワークショップ名：「ゴスペル クリスマスコンサート」

日時：2016年12月25日(日) 14:00～15:15
場所：2C棟デイルーム 1C棟病室前
参加者：121人
(子ども70人 保護者16人 病院関係者35人)
指導者：ザ ゴスペルトレイン18人

ワークショップの内容

アカペラとピアノ演奏でのクリスマスソングのメドレーと一緒に歌う(星に願いを サンタが街にやってくる 赤鼻のトナカイ ハレルヤ など)



クリスマスソングに合わせて腕を振っている子、頭をゆすっている子、目で追っている子、どの子も楽しそう。付添いの家族も歌声に反応しているわが子の表情をうれしそうにカメラで写しながら笑顔で話しかけていた。



最初の曲を終えた途端に「アンコール！」が聞こえ、会場中が笑い声に包まれた。サプライズで、今日、お誕生日の子がお祝いの歌を歌ってもらい、ぱっと笑顔になった。それを見てスタッフの方が「あ、笑ってる！」とうれしそうに言い合った。

病院関係者からの声

病室訪問ではアカペラの歌が廊下中にしみわたり、厳粛な中にも温かい雰囲気を作った。家族の方が子どもにクリスマスカラーの洋服を着せてあげ一緒にゆったりと楽しんでいて微笑ましかった。

- ・当日は、室内装飾などの準備をしているところから期待感が膨らみ、コンサートを楽しみにしている様子が見て取れた。歌声が届き始めると、一緒にリズムを刻んだり、歌ったりする姿がみられ、だれもが楽しんでいる様子だった。
- ・病室訪問は医療ニーズの高い重症心身障害の方々の病棟ということもあり、殆どの利用者が居室のベッドの中にいましたが、歌声は届いていたと思います。クリスマス日に、とても素晴らしい時間をプレゼントできた。
- ・長期入所をしている重症心身障害の利用者の方は、なかなか外出して文化に触れる機会がないので、こうした事業は、とても意味のあるものだと思う。



この事業は、たくさんの方のご支援により実施しております。皆さまのご理解ご支援にたいへん感謝いたします。

【寄付者・募金箱設置協力店】

亀八庵

アムール 一品香 オモニキムチ 四季よし 炭火屋ともろう Jr
鳥いち 日乃出庵 船橋グランドホテル ホットドック幕張カーキーズ 焼肉伝次
レストランロス・アンジェルス ファミリーマート八千代高津店



特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 カート新千葉 102号

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp

URL http://chiba.gekijou.org/

この報告書の内容を無断で引用・転載することは固くお断りします。